

平成29年度各会計予算 に対する各会派等の

意見表（要旨）

自民党豊島区議団

公明党

日本共産党

民主ネット

都民ファーストの会としま

社民党

平成29年度一般会計及び3特別会計予算に賛成の立場で意見を述べる。29年度予算は、新たな区民要望に最大限に応えつつも、4年連続で財政調整基金を取り崩すことなく編成するなど、財政健全化の成果が活かされた予算であると同時に、持続発展都市の実現に向け、今後の豊島区政の発展に向かう予算、将来に渡る安定的な財政運営の確立に道筋をつけた予算と評価する。

平成29年度一般会計及び3特別会計予算について賛成する。
【款別の主な意見と提案】
議会費・総務費
議会広報紙の年一回全戸配布。フリーWi-Fiと充電器設置。地震ブレイカー設置補助の全地域実施。災害時の確実な分娩と巡回保健指導の体制構築。

福祉費・衛生費
待機児童対策推進と多様な保育の充実。保育所等のICT化の推進。学童クラブ入室管理システムの導入。子どもの虐待と貧困対策・支援の充実。特定不妊治療費助成の広い周知。

環境清掃費
フードロス対策講座開催と、飲食店への働きかけ。

都市整備費・土木費
池袋駅東西デッキの着実な整備。大塚駅南北駅前整備は、人に優しい広がりのあるまちづくりを。デマンド交通は、距離だけではなく坂が多い地域も視野に、相乗りや予約システムを。路面空洞化の計画的調査。

文化商工費・教育費
国際アート・カルチャー都市構想を都の文化事業と連携推進。スポーツ施設の改修・修繕工事推進。

3 特別会計については、糖尿病重症化予防事業について、レセプトデータの分析や準備を進めることを要望する。

一般会計並びに3特別会計予算に反対する。

第一に区民の需要に応える予算になっていない。就学援助の入学支度金やクラブ活動費の金額は実態に見合っていない。生活保護の法外援護は復活しない。子どもの医療費無料化の拡充もしない。住宅対策は、ファミリー向けの区民住宅から撤退し、公営住宅の増設や家賃補助の拡充もない。特別養護老人ホーム新設の具体的計画はない。商店街対策も不十分。

第二に自治体本来の役割を投げ捨て大企業本位のまちづくりや無駄な開発を進めている。交通手段とまらないBRTバス輸送システムは無駄遣い。公民連携といった池袋駅東西デッキ整備事業に税金を投入し、また公園のトイレ改修に民間企業の協力を得るかわりに自動販売機を置かせるような大企業本位のまちづくりをしている。

第三に将来の財政運営に支障をきたす。この間、福祉を削りやるべきことをやらずに基金に積み立ててきた。区民のためではない新ホールや東西デッキなどを進めることは、将来の財政運営に支障をきたす。

保険料を大幅値上げする国民健康保険及び後期高齢者医療、必要なサービスが受けられない介護保険の3特別会計に反対。

平成29年度一般会計予算、3特別会計予算について、可決に賛成する。4年連続で財政調整基金の取り崩しを行わず編成したことを高く評価。多様な区民需要に応えるために、堅実な財政運営を望む。事業別には、区が建設した施設の指定管理の収益は区民に還元されるように。野外スポーツ施設をPFIで行うことを見直し、多様なスポーツが行える場所として区が運営責任を。区立公園内のトイレと飲料の自動販売機をセットで置くことは環境と子どもたちの食習慣や健康を踏まえ、慎重な取組を。公民連携がビジネスという視点に偏りすぎないよう。新設の多文化共生推進担当課には庁内を横断する政策を。区民が住み続けられるまちづくりのために、地域との連携を。防災無線のデジタル化では、区民に確実に情報が届く整備を。スタートアップオフィスは起業しようとする多くの方が利用できるように。すべての区立小中学校でセーフスクールの認証を。本区上空の飛行ルート問題は区民の不安が解消するよう国の丁寧な説明を。国民健康保険事業会計、後期高齢者医療事業会計では区民の負担が過重にならない取組を。介護保険事業会計では「選択的介護」について利用者にわかりやすい丁寧な取組を。

以下、款別に主な事項について述べる。総務費では、救済センター以外へ避難した被災者の健康を保つ方策の構築を。福祉費では、待機児童対策には予算を重点的に配分し、推進を。都市整備費では、大塚駅周辺整備事業は、北口整備に関して、民間開発とも連動し、町全体の賑わいを図れるよう求める。文化商工費、教育費についてはオリピック・パラリンピック気運醸成について、公立小中学校等と連携して取組を。予備費は透明性確保と情報公開の観点から、適宜議会へ報告を。3特別会計については、選択的介護に係る実証実験は、都知事と区長との連携によるもの。全国のモデルとなる仕組みの構築を期待する。

平成29年度一般会計予算、3特別会計予算の可決に賛成の立場で意見を述べる。

「都民ファースト」、「情報公開」、「ワイズスペンディング（賢い支出）」の3つの観点から審議した。29年度一般会計予算規模が5年ぶりのマイナスとなる中、新規拡充事業は27にのぼり、メリハリのついた予算と評価。小池都知事との繋がりが深い本区ならではの取組では、無電柱化、待機児童対策、国家戦略特区、特に選択的介護や東アジア文化都市などで、都との強い連携を取る区の考えを確認した。

以下、款別に主な事項について述べる。総務費では、救済センター以外へ避難した被災者の健康を保つ方策の構築を。福祉費では、待機児童対策には予算を重点的に配分し、推進を。都市整備費では、大塚駅周辺整備事業は、北口整備に関して、民間開発とも連動し、町全体の賑わいを図れるよう求める。文化商工費、教育費についてはオリピック・パラリンピック気運醸成について、公立小中学校等と連携して取組を。予備費は透明性確保と情報公開の観点から、適宜議会へ報告を。3特別会計については、選択的介護に係る実証実験は、都知事と区長との連携によるもの。全国のモデルとなる仕組みの構築を期待する。

社民党石川大我は、2017年度一般会計予算、3特別会計予算に賛成する。

款別の主な意見は、▼災害時の「水」の確保は万全の体制を▼議会施設のバリアフリーは関係団体にも協力要請しPRを▼人権週間にあわせたパネル展は当事者の居場所づくりを兼ねて皆でつくるなど工夫して区独自のものを作成を▼若者の自殺予防として中高生センターの活用を▼区内宿泊施設の同性カップル宿泊拒否事案は、法令違反施設には引き続き、厳しく指導を。法令遵守施設には業界団体と協力してステッカーを貼付するなど工夫を▼「禁煙レストランとしま」が4月から全区的な取組となる。先進的であり、積極的に拡大を▼商店街のボランティア灰皿は時代的发展方向性として撤去すべき▼大塚駅前南口広場はアーティストがパフォーマンスできるような仕組みの工夫を▼学校給食は、児童生徒の声も反映しつつ、さらにおいしい給食を

▼LGBTの子どもの支援は、相談できる体制を各学校で早急に整えよ▼豊島区の実態は「全国の調査との間に現実的な乖離がある」と認識」と答弁した教育長は特に認識を改めよ。

本予算の執行が、多様性を尊重し、すべての人に優しい豊島区の将来へとつながるよう期待。